

# 相談援助の基盤～不登校・ひきこも り相談から学ぶケースワークの原則

函館市社会福祉総合相談センター相談員研修会

2023年11月8日

講師：野村俊幸(社会福祉士・精神保健福祉士)

# 自己紹介①

- 1950年3月21日生まれ、北海道北斗市(旧上磯町)出身
- 北海道大学文学部社会学専攻課程を卒業し、一般行政職として北海道庁に奉職
- 渡島・松山・胆振各支庁、本庁生活福祉部・保健福祉部を経て、児童自立支援施設大沼学園、函館児童相談所、倶知安保健所に勤務し、児童福祉や精神保健福祉、健康増進業務等に従事、2008年3月31日、北海道渡島保所子ども・保健推進課長(当時)で退職
- 函館臨床福祉専門学校講師、北海道教育大学函館校非常勤講師、はこだて若者サポートステーション相談員を務めた。
- 民生委員児童委員、社会福祉法人函館市社会福祉協議会評議員、函館地方精神保健協会監事、函館市教育委員会家庭教育セミナー講師、社会福祉法人函館博栄会監事、函館市障がい福祉計画策定推進委員会委員を務める。

## 自己紹介②

### 【不登校・ひきこもりに関連サポート活動】

- 不登校・発達障害を考える保護者会函館アカシヤ事務局
- 道南ひきこもり家族交流会「あさがお」事務局
- 一般社団法人函館圏フリースクールすまいる理事
- 「昴の会」～不登校をともに考える会 アドバイザー
- ふおろ～ず（自閉症スペクトラム家族学習会）連絡員

# 本日の講義内容

- 1 私の基本的スタンス 2 わが家の不登校体験
- 3 ひきこもりの基本的理解について
- 4 ソーシャルワークによる関わりの大切さ 5 父親を味方につけるヒント
- 6 不登校・ひきこもりについて家族・支援者に留意いただきたいこと
- 7 不登校の現状と課題 8 教育機会確保法から多様な学びの創造へ
- 9 ひきこもりの現状と課題 10 ひきこもり支援体制の充実に向けた動向
- 11 函館地域の当事者・家族の自助会、相談会 12 連携協力機関・団体
- 13 関連書籍の紹介 14 資料提供のお知らせ
- 15 ことあざや言い伝えに学ぶ 最後に:「終着駅は始発駅」(北島三郎)

# 1 私の基本的スタンス

## □当事者の立場

- ・2人の子どもが長期の不登校だった親の立場
- ・6人の孫のうち、長女宅の息子2人が中学校で不登校を体験、次女宅の中学生1人と小学生2人が不登校中でホームスクーリングを選択しているというジジイサンの立場

## □ソーシャルワーカーの立場（社会福祉士・精神保健福祉士）

## 2 わが家の不登校体験①：長女の場合

- 長女(49歳)は、中学2年生になって間もなくと登校できなくなる。ずっと後で(本人が成人になってから語った)いじめが原因と判明。
- 当時は不登校についての情報も少なく、必死に**登校させようとするが、登校させようとすればするほど体調は悪化**。このままでは高校受験ができないと心配になり、中学終了時に留年させ、もう1年中学3年を過ごすが、これで長女を決定的に追い詰める。
- 不眠→昼夜逆転、外出困難など生活はボロボロになり「ひきこもり」状態に。メンタルクリニックも受診。私はやっと対応の誤りに気が付く(妻はだいぶ前に理解し対応を変えていたので長女との関係は回復していた)。
- 親が**高校進学へのこだわりを捨て、不登校受け入れてからだんだん元気回復**、通信制道立有朋高校に入学、5年がかりで卒業し就職、間もなく結婚し3人の子育てに従事してきた。

## 2 わが家の不登校体験②：次女の場合

- 次女(39歳)は小学4年生の1学期で登校できなくなるが、それまでは先生にも可愛がられ、友達もたくさんいて元気に通学しているように見えたので、さっぱり思い当たる節がなかった。(後日、次女は「**明るく元気にしなければ**」と思って、**頑張りすぎて疲れたのではないかと語っている**)
- 長女の時の反省から、**一切登校刺激はせず、学校からの働きかけもやめてもらうと間もなく元気回復**。家では一切学校の勉強はせず、テレビ、ゲーム、読書(主に漫画)で過ごす。友だちとは遊んでいた。やがてジャズダンスを始める。
- 不登校のまま小学を終え、中学進級時に通学してみるが、**いじめもありすぐに登校を止めそのまま中学を終え有朋高校に進学**。3年時に公務員試験に目標を定めて予備校に通い国家と北海道の採用試験に合格、現在は道職員として共働きをしながら3人の子育て中。

## 2 わが家の不登校体験③：子どもたちから学んだこと

- 「焦らない」「否定しない」～本人にとって**必要な時間**と考える。
- 「行けない」不登校から「行かない」不登校に気持ちが変わることで元気になる。
- 一度思い切り学校から**離れる**方が、元気回復の近道。
- 学校に戻ることを**目的にしない**。
- 「いろんな道がある」ことを知る。
- テストの成績や学校の評価を気にしない**で子どもと接することができる。

※学校を職場・仕事と読み替えると「ひきこもり」への対応にも共通します。



### 3 ひきこもりの基本的理解について①

#### (1) なぜひきこもり支援に関わるようになったか

- 1993年、**登校拒否と教育を考える函館アカシヤ会**がスタート、**小中学生の親が大半**だった。毎毎月第3日曜日に例会を開催、今年度から**不登校と発達障害を考える保護者会函館アカシヤ**と名称を変え、例会は保護者の茶話会」として継続している。会員・協力者は約120名、参加費無料。
- その後、**高校生の不登校や中退、大学中退して働くことができない**という相談も増える。子どもの年齢が上がるほど、本人も親も「この後どうする」という焦りから**不安を募らせる**。青年期は**精神疾患**を発症しやすい時期で、その心配も大きく、ひきこもりに理解のある精神科医の呼びかけで家族の集いを開催し、2003年に**道南ひきこもり家族交流会**が発足、後に「**あさがお**」という愛称を採択。毎月第2日曜日午後3時に例会を開催、会員・協力者約100名、参加費無料。ひきこもりを体験した当事者の交流会「**樹陽のたより**」も第2日曜日午前に開催されている。

### 3 「ひきこもり」の基本的理解について②

#### (2) ひきこもりとは何か？

- 様々な理由から社会的参加の場面が狭まり、就労や就学などの自宅以外での生活が失われる状態（現象概念）で、厚労省は6か月以上を「ひきこもり」と定義。従って病名や障害名ではない。
- 自分の安心、安全を確保し、必要な休息をとっている。
- 長期化し膠着状態になることで、生活面や家族関係に困難や葛藤が生ずる場合が多い。
- 自室から出られない方から、買い物や図書館等、用事があれば出かけられる方まで、状態は幅広い。

### 3 ひきこもりの基本的理解について③

#### (3) ひきこもりは全て問題なのか？

□定年や仕事に疲れて、ひとまず自宅で充電中の人もいる。

□就労していなくても、家事や介護等、**家族の中で大事な役割を**

**果たし、家族同士それを認め合って仲良く暮らす家族もいるので、「ひきこもり」とラレッテル貼りにならないよう留意が必要。**

□しかし、様々な辛さや困難をかかえ、**心理的・精神保健上の支援**  
**や福祉的支援、就労に関わる相談支援を必要とする方もいる。**

□ひと括りにしないで、**個々具体的な関わりが必要。**

### 3 ひきこもりの基本的理解について④

(4) 家族・支援者で共有したい基本的視点

①「ひきこもることの意味」を本人に寄り添って考える。

→ 必要なプロセス、大切な時間という視点～否定的な眼差しは禁物

② 不登校との関係～「不登校を早く治さないとひきこもりになる」のではな

く、「十分に不登校できなかった」「安心して不登校できなかった」ために  
ひきこもりへと追い込まれた。

## 4 ソーシャルワークによる関りの大切さ①

### (1) 社会福祉士倫理綱領

『人々がつながりを実感できる社会への変革と社会的包摂の実現をめざす専門職であり、多様な人々や組織と協働することを言明する。われわれは、社会システム及び自然的・地理的環境と人々の生活が相互に関連していることに着目する。』

- 環境との相互作用を重視し、個人の問題に還元しない。
- ネットワークの役割を重視する。

## 4 ソーシャルワークによる関りの大切さ②

(2) ケースワークの原則(バイステックの7原則)を生かす

- 原則1「クライエントを個人としてとらえる」(個別化)
- 原則2「クライエントの感情表現を大切にす」(意図的な感情表現)
- 原則3「援助者は自分の感情を自覚して吟味する」(統制された情緒関与)
- 原則4「受けとめる」(受容)
- 原則5「クライエントを一方的に非難しない」(非審判的態度)
- 原則6「クライエントの自己決定を促して尊重する」(自己決定の尊重)
- 原則7「秘密を保持して信頼感を醸成する」(秘密保

(誠信書房「ケースワークの原則・新訳版、カッコないは旧訳)



## 4 ソーシャルワークによる関りの大切さ③

【なぜ、バイステックに依拠するのか】

□児童自立支援施設大沼学園や函館児童相談所に勤務し、福祉の基本的な勉強の必要性を痛感して社会福祉士と精神保健福祉士の国家試験受験資格を得るために通信教育を受講、レポート課題で「ケースワークの原則」(バイステック著、誠信書房)を読み、

「目からウロコ！」の連続！！

□わが家の体験を言い当てられたと痛感



## 4 ソーシャルワークによる関りの大切さ④

- 長女に対する当初の私の関り方は、**ことごとくバイステックの原則に反したやり方**で、長女をボロボロになるまで追い詰めてしまった。
- 長女に対する関り方を変えて以降、また次女に対してはほぼ初めから、**この原則にかなったやり方**をしていたことに気づく。
- これはわが家の体験に限らず、アカシヤ会や「あさがお」でうかがうご家族の体験にも、全国各地で交流したご家族の体験にも共通
- この原則にかなった対応ができないうちは家族関係は改善せず、かなった対応に変わると家族関係は改善していく。**

## 4 ソーシャルワークによる関りの大切さ⑤

(3) 不登校・ひきこもりの家族が超える**5つの関門**に即して考えると

### 【第1関門】

子どもが「今は学校に行くのがとても辛い」「今は働くことができない」ことを認めて、「とりあえず」でも「仕方なく」でもいいから、「**学校を休んでいいよ**」「**仕事は無理しなくていいよ**」と言えるかどうか

→ **受容の「入り口」**に立つ。

## 4 ソーシャルワークによるの関りの大切さ⑥

【第2関門】「いつまで休ませればいいのか」と焦り出す気持ちを抑えることができるかどうか

→ **非審判的態度で受容**することが大切に～原因を冷静に考える

ことは大切だが「焦って原因探しに走り回る」ことは逆効果

※「**原因探し**」に走るときの**心理**は、そのことを否定的に捉えているから

→結果的に、相手に対する**批判的なメッセージ**になる

(例) 子どもが100点取ってきたときに、あれこれ理由を問い質しますか？

反対に悪い点数を取ってきたときはどうでしょう？

## 4 ソーシャルワークによる関わるの大切さ⑦

### 【第3関門】

子どもが元気になる**と「心がざわつく」**が(元氣そうだから、そろそろ〇〇できるんじゃないだろうか)、ここをコントロールできるかどうか**が鍵**になる。

→ **すぐに次のことを求めてしまいがちに**

→ **子どもの感情表現を塞いでしまうことになる。**

※**原則2**～相談に来た方が、**自分の気持ちを安心して思い切り吐き出す**ことができるように相談環境を整えることが重要。

相談者が語ってくれないと課題も整理できず、語る**こと自体に、**相談者が元気を回復していく効果がある**(カタルシス効果＝浄化)**。<sup>20</sup>

## 4 ソーシャルワークによる関りの大切さ⑧

- 原則2を実現するためには、相談を受ける側は、原則3「**統制された情緒関与**」に努めることが大切 → 相手に話す内容はもちろん、自分が**どのような態度で、どのような感情や雰囲気に対応しているのか、常に自覚して吟味する必要**がある。口に出さなくても、こちらの気持ちは相手に伝わる。
- 私の失敗談 ・長女の「テレビスイッチ事件」
  - ・私の「ドアを閉める音」事件
- 例会で良く出る話～「**学校オーラ**」「**働けオーラ**」が出ていませんか？
- 第3関門を越えると、親子関係も安定し、将来のこTPなどもじっくり話し合える基盤ができる。**

## 4 ソーシャルワークによる関りの大切さ⑨

### 【第4関門】

□「進学をどうするか」「就職をどうするか」が大きな岐路になる。

□「いろんな道がある」と思えるかどうかのポイント

□「学校の序列」「良い就職口」「せめてアルバイトくらいは」などの

「世間常識」ではなく、子ども一人ひとりに合った道、子ども自身の  
気持ちを第一に考える。

※親と子どもは別人格 → 「個別化」という視点の大切さ

『独自性を持つ「特定の一人の人間」として対応されるべきという人  
間の権利に基づいた援助原則である』(バイステック)

## 4 ソーシャルワークによる関りの大切さ⑩

### 〔第5関門〕自己決定の尊重

- **本人が考え、自分で決めないと、本当の前には進めない**
- 長女の体験：なぜ通信制高校をやり遂げることができたか？
  - ハローワークで仕事探しをした体験から必要性を実感
- 次女の体験：通信制高校に進学した理由は
  - 「そこしか行けない」ではなく「ダンスをやりたいから」

※「子どもの人生は子どもに委ねる」と腹を括ることができるかどうか  
→ 人生航路は子どもが自分の船で進む。親は避難港・補給基  
23  
であればよい。

## 5 父親を味方につけるヒント①

【父親は理解できないことが多いと考えておく】

□「自分は職場で頑張っているのだから、学校も行くのは当たり前」「仕事をするのは当たり前」「学校も行けないで世の中に通用するはずがない」「甘えていい」という「世間常識」から、なかなか抜 け出せない。

□高学歴の父親は自分と同程度の学歴を、学歴コンプレックスのある父親は「自分と同じ苦労はさせたくない」と考えがちになる。

□「社会的地位」が高いほど世間体を気にしがちで、プライドが高いほど、悩みや不安を外に出すことができず、相談することをためらう傾向が強い。



## 5 父親を味方につけるヒント②

【パートナーに話しするときのちよっとした工夫】

□**説得しようとしな**い。相手は「説得＝今の自分が間違っていると言われている」と感じる。前記「第2関門」の(例)と同様の構図になりがち。

□**「権威ある」第三者の意見として伝える**。一番効果的な**医師の意見**。その他、臨床心理士、公認心理士、保健師、社会福祉士、精神保健福祉士など有資格者の**専門職**、**著名人**など。学校の先生が**理解のある**場合は、その助言も**効果的**。

## 5 父親を味方につけるヒント③

【相手が受け入れやすいような話し方の工夫】

□自分の辛い気持ちや愚痴を聞いてもらいたいのもよく分かりますが、「俺も仕事で疲れている」という反応が多いと想定しておく。  
話を聞いてもらいたいときは「**〇分だけ時間を貸してくれない？**」とお願いの形で伝える。

□《YOU(あなた)メッセージ》～「あなたは〇〇なんだから」～ではなく、  
《**I(わたし)メッセージ**》～私は〇〇と思うんだけど～という具合に。

これは子どもとの会話でも心がけたいこと。

□やってほしいことは**できるだけ絞って、具体的に短時間で伝える。**